

Moshi- Mosu

もっと知れば、
もっと好きになる！
長岡京市の歴史・文化財

IV

Vol.21 2022 Autumn

Walk on!

次の時代へ何を残せるのか。

涼しい季節になるとふと思うことがある。千年もむかしに、奈良の都からこの地にやってきた人々は何を思ったのだろうか。

時はめぐり——現在。私たちのまちには、今もまだ多くの建物が増え続けている。大きな変化ではなくても、日々歴史をつくっているのだ。このまちの様々な出来事も、暮らしのなかで巻き起こる思い出も、実は同じライン上にあって、きっと繋がっている。人々の営みが文化であり、歴史であるのだからこそ、私たちは次の時代へ歩き続けなければならない。

このまちを住まいに選んだ人たちは、どんな物語をつくっていくのだろうか。

Walk on.

次の時代へ何を残せるのか

2010年代以降、文化庁は文化財をただ保存するだけの存在から観光などとの連携を強化するようになりました。一括りに「文化財」と言いますが、多種多様なものが指定・登録されており、「文化財＝歴史文化」というような固定概念の枠を取り除いてみる必要があります。文化財の“真”の価値を損なわず、行政主導でない様々な試みが模索されています。今回紹介する方々は、まさにそうした取り組みの先駆者の方々です。これまでのただ見るだけの文化財、ただ学ぶだけの歴史を観光と関連させるだけではなく、文化財のもつ本来のスペックをより活かすための新しい視点で活躍されています。私たちには、この先の未来へ大切なものを残していくために、もっと柔軟なアイデアが求められます。



暮らしの中に文化財・文化・アート・信仰があるような環境をつくりたい。

勝龍寺は歴史あるお寺であると同時に、村の人たちにとって大切な場所だ。お寺に掛る写真を見て、昔のようにもつと地域の人たちとの関わりを大切にすることを社会にしたいと、お寺で様々な活動をはじめたのが、「勝龍寺ほてい市」である。「文化財とかお寺が敷居の高いものではなく、きっかけはマルシェであったとしても、お寺に来るといことが



KAMICO

兵庫県生まれ。2018年から勝龍寺を拠点に「次世代に繋ぐ種まきを今ここから始めよう」をテーマにしたマルシェ「ほてい市」を企画。その主催団体 neoseed (ネオシード) の代表を務める。

「モノにストーリーが生まれれば、価値は何倍にもなる。」

「モノにストーリーが生まれれば、価値は何倍にもなる。」

「モノにストーリーが生まれれば、価値は何倍にもなる。」

竹の産地である長岡京市は、日本における孟宗竹のはじまりの地という伝承がある。高野竹工(株)は、京都西山を中心とした竹を使った竹製品を取り扱う工房だが、西田さんは寺院で廃棄されていた古材に着目するようになった。古材や古いものを今の時代に合わせて、修理して再利用する。古材を手に取り、「役割が一度終わったものでもう一度使うことで昔のことを知ることができ、私たちがいいものをつくれる」「古いものにはそれぞれの歴史(ストーリー)があって、今みたいにものがない時代につくられたものだからこそ、考え抜か



西田隼人 Hayato Nishida

熊本県生まれ。茶道具を中心とした竹細工工房の高野竹工株式会社に在籍。竹に留まらず、古材を再利用した様々な商品をリリース。国内外の人々との交流から伝統技術と文化をひろめている。



発掘調査で見つかった木簡の墨書をデザインした木皿



伝統の竹を守り繋ぐ



妙喜庵茶室の古材や倒木の桜が生まれ変わる

自分らしく、楽しむ。長岡京らしく、遊ぶ。



桧村恭子 Kyoko Kashimura

福岡県生まれ。観光体験プログラム Rashiku (らしく) 長岡京代表。サントリー SPG や様々な職種の経験を得て、本市観光協会へ。その後、独立しておもてなし企画やまちづくりなどへ次々と参画し、観光に不慣れた市民の意識の改革にチャレンジしている。

観光客に長岡京のスポットをただガイドするだけではダメだ。桧村さんが立ち上げた「らしく長岡京」は、長岡京市内の歴史や文化財を使って魅力溢れる体験をホストとともに楽しむための体験プログラムである。それは、長岡天満宮や光明寺、町家、古墳など様々な文化財と〇〇体験をコラボさせるもので、体験の講師は地元和菓子屋や自宅で雑貨販売している人、コーヒー焙煎人などが務める。「知られていないけど、実は凄い人たちがこのまちにはたくさんいて、その人たちに文化財で活動してもらっておもしろいよね」と次の体験を何にするか愉しそうに微笑む。「もっとみんなと長岡京を楽しみたい」。そんな想いでまちを見てみると、もつとできることがありそうだ。



国登録建物でヨガ体験



恵解山古墳で「墳ピク」を楽しむ

習慣になってほしい。日常の中に、暮らしの中に溶け込んでいくようにしていきたい」という想いをもつ。また、KAMICOさんは切り絵アーティストとして勝龍寺城にちなんだ細川ガラシャや龍や神仏の作品を次々とリリース。「Life's Art.」(暮らしこそがアートである) がテーマのアート展「ミチテラス」も開催され、「次の世代に引き継いでいきたい技術を見てもらいたい。知ってもらいたい」と自身の切り絵だけでなく、陶器や藍染め、竹越前和紙など様々な分野の伝統工芸の職人が出品し、それらをアートで繋いでいった。地域の子供たちと文化財が密に関わり、記憶に残るし、アイデンティティになっていく。勝龍寺を誰もが気軽に集まれる場所にしていきたいと熱く語る。



地域で子供たちを育てる環境をお寺でつくと奮闘する KAMICO さん



切り絵体験ワークショップ



切り絵デザインの御朱印

Topic!

本号では文化財を活用した新たな取り組みを実践されている方々にスポットを当てた特集を掲載しています。今年は市制施行 50 周年ということで、各所で様々な企画が催されています。みんなが文化財を使って何かやってくれたいのにな。なんて考えていますが、いろんな制約があって、できたりできなかったり。今回のトピックは高校生の活動を紹介します。

SPECIAL INTERVIEW

乙訓高校生に聞きました!

長岡京市は“歴史があるまち”というイメージがありませんと答えてくれたけど、具体的に何か知ってる?の質問には言葉が詰まってしまいました。普段は通学路以外は通らないので、実は長岡京市をあまり知らないし、行ったことがない場所ばかり。そんな乙訓高校の1年生が昔の写真をヒントに「タイムスリップ写真」の撮影に挑戦してくれました。企画は①古写真の場所をネットで探す、②現地へ行って写真を撮る、③その場所の歴史を調べるといったものでした。この場所で正解かどうか。まずは町中をウロウロ。わからない場所は近くのお店の人や地元のお年寄りに昔の様子を聞いたり。とにかく景色が変わっていて探すのが難しかったそうです。企画に挑戦してみて、「写真に写っていた文化財のことすら知らないし、知られていないことが問題。」



「SNSでスポット(お寺・神社)の紹介をしてみたいです。」とうれしいコメントを頂きました。



タイムスリップ写真館「みんなのギャラリー」

市制 50 周年記念サイト公開中!



10月1日に市制施行50周年を迎えた長岡京市には、魅力ある文化財がたくさんあります。文化財保存活用課では、これまでの文化財保護の取り組みや記念イベント情報を配信しています。



市制 50 周年サイト

Event

埋蔵文化財センターへ行こう!

もうすっかり秋になりました。どこへお出かけしようか迷っているあなた!埋蔵文化財センターでは、設立40周年を記念した企画展示が始まりますよ。

長岡京 一桓武天皇の都一

令和4年11月1日(火) ~ 11月30日(水)

延暦3年11月11日。桓武天皇は、奈良の平城京より「山背国長岡」へ遷都した。展示では最新の調査成果から長岡京がどのような都だったのかに迫る。

会場:長岡京市立埋蔵文化財調査センター
時間:平日8:30~17:00(土・日・祝は10:00~16:00)
休館日:会期中は無休

表紙:長岡天満宮参道

中面写真:高野竹工株式会社、らしく長岡京 提供

『Moshi-mosuIV』Autumn vol.21

バックナンバーはこちら!



文化財の Trivia トリビア

Q. キリシマツツジが文化財ってホント?

A. 長岡京市では名所である長岡天満宮のキリシマツツジを市の文化財に指定しています。文化財には、お寺やお城など形が残っているものだけでなく、土に埋もれた史跡や、景観・行事・伝統技術などもあります。



おれの長岡京はどれになるのだ?



桓武天皇